essay

「恵まれた大地」

その４　冬

仲間たち「上士別ふるーる」との作品展

士別市上士別　農業

五十嵐　紀子

私が住むこの場所は、標高一三〇ｍ程の小高い山々が連なり、牧草地や畑は丘陵の様を呈し、近くには昔、砂金が採れたという金川（天塩川の支流）が流れる変化に富んだ、そして自然豊かな所です。

また、二㎞四方には我家しかなく、人間の数や牛の数より、獣の数の方が多いと思われるこの土地が私は大好きです。

この土地に住んで二七年目にして初めてヒグマの足跡が、我家の畑や舗装道路など、あちらこちらで目撃され（残念ながらヒグマ本体は見ておりません）、少々ドキッとしましたが、今頃、山の奥の大きな木の根元で、フカフカの腐葉土と白い雪のフトンでぐっすり眠っていることでしょう。

家から 50m 程の所に
ヒグマの足跡が・・・

雪が毎日のように降り続く日でも、私は愛犬二匹をお供に散歩に出かけます。車の通りがほとんどない除雪された道路の真中を、大手を振って歩くのはなんと気持ちの良いことでしょう。氷点下一五℃を下まわった日には、夕方、西の空にサンピラー（太陽柱）が見られたり、晴れ渡った午前中にはきらめくダイヤモンドダストの中をうっとりしながら歩いています。

五十嵐　紀子（いがらし　のりこ）さん

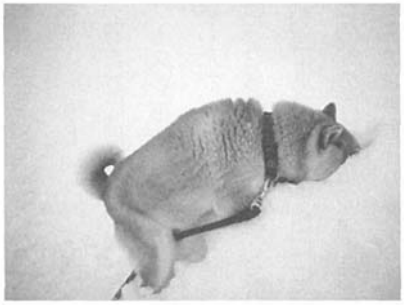
仙台市生まれ
恵泉女学園短期大学　園芸生活学科卒
1977年　新規就農
夫　　広司　51歳
長男　直人　26歳
長女　恵　　23歳
二男　信人　20歳

現在75.2㌶で酪農を中心とした立体農業を展開中。
栽培作物：缶詰用トウモロコシ・ビート・カボチャ
ジャガイモ・小豆・小果樹

マイナス20℃の散歩
空がきれいです

時々、遠くの林でこちらを見ているキタキツネがいたり、道路の雪の壁の小さな穴からイイズナが顔を出したり、白樺の梢でコガラが群れて飛んでいたりします。夕方には突然、目の前をユキウサギが疾走したり（犬たちは狂ったように追いますが、追いつきません）、毎日、今日はどんな生き物の息遣いにふれられるのか楽しみです。

時にはカンジキをはき、夏の間はけっして人を寄せつけない森の中で、エゾリスの生活を垣間見ることもあります。針葉樹の森は、夏冬でもあまり積雪が深くなく、様々の木の実が白い雪の上に落ちています。ドイツトウヒは大きな長い松笠を、オウシュウアカマツは卵形の丸い松笠を、そしてカラマツやグイマツは小さなかわいい球果を落としてくれます。特にカラマツの松笠は、正面から見ると、まるでバラの花のようなきれいな形で、思わず拾ってしまいます。これらの松笠はみな、



散歩の途中、何かいるゾ！

あざやかなリースにお母さんたちも満足

親子でリース作り

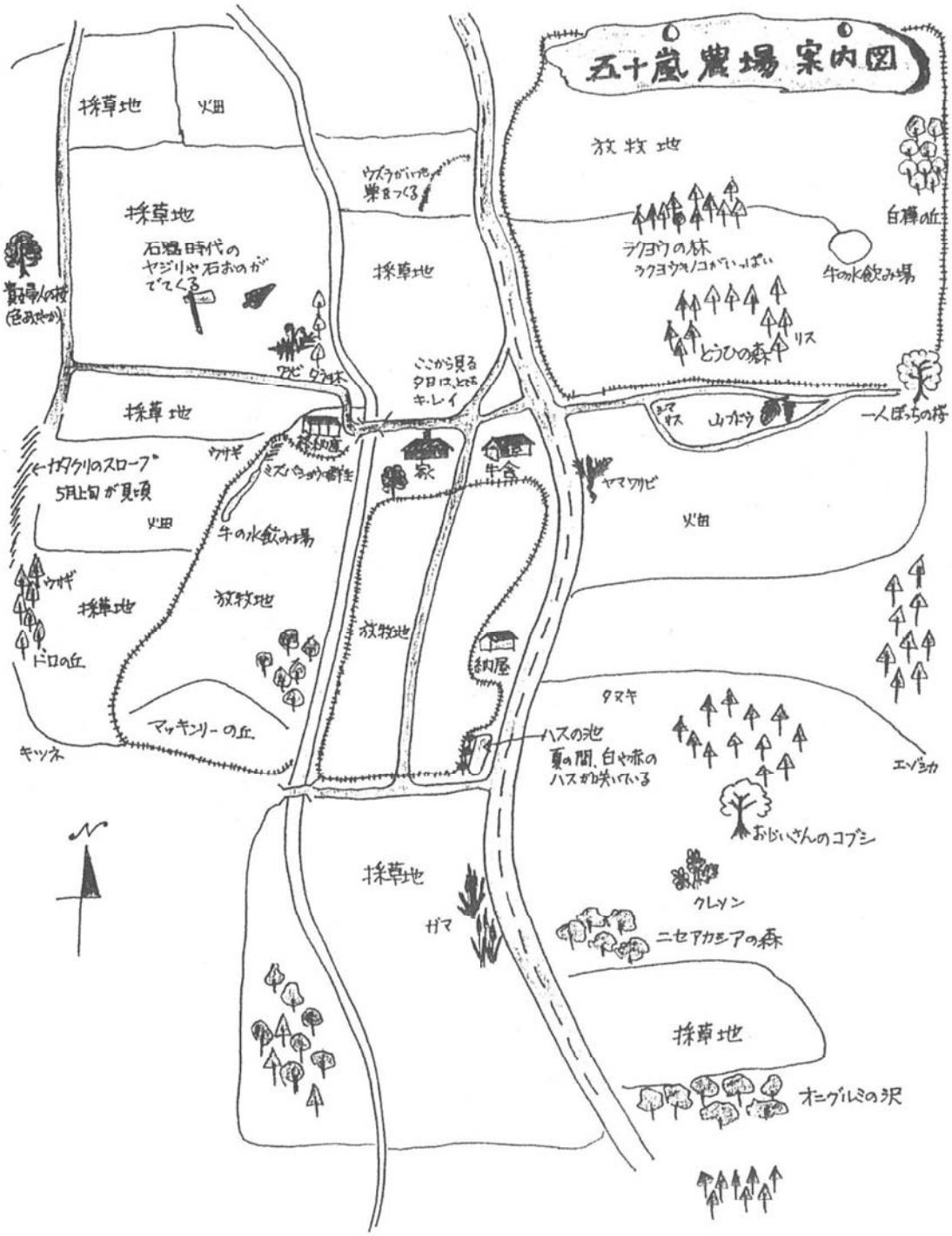
エゾリスとの競争です。エゾリスは食べる場所が決まっており、森の中の何ヵ所かで松笠の芯だけが無数にころがっています。食べているところを想像すると、思わずほほえむ光景です。

そうして、拾ってきた山からの宝物は、長い冬の間の、もうひとつの仕事であるドライフラワーのアレンジに使われるのです。

学生時代、花屋さんになりたくて、生け花やフラワーアレンジメントの勉強をしたのですが、自給自足の生活に憧れ、今は酪農を中心とした立体農業を実践しており、その中に冬期間の楽しみとして組み込まれています。

夏の間、タネから育てたり、花卉栽培農家から分けてもらったり、道端や山で採った様々な花や実、葉を色あせしないように乾かして、雪がちらつく頃から、公民館講座やお母さんたちの集まり、老人クラブや高校など、年齢も職種も違う様々な人たちに教えています。同じ材料でも作り手が違うと出来上がりも千差万別、世界でたった一つの作品に皆喜びの声をあげます。「無になれてよかった」とか「久しぶりに集中した」などの感想を聞くことができ、こちらも嬉しくなってきます。

今までに何人もの人たちにリースや花束などを教えてきましたが、その都度こちらも勉強させられることが多くあり、刺激にもなります。私にとって、この冬の間は、私の頭と手を老化させない恰好の時なのです。


五十嵐農場案内図
採草地
畑
採草地
石器時代の
ヤジリや石おのが
でてくる
ウズラがいっぱい
巣をつくる
採草地
放牧地
白樺の丘
ラクヨウの林
ラクヨウキノコがいっぱい
牛の水飲み場
数年前の桜
(色みやか)
アビ
ウラ林
ここから見る
夕日はとても
キレイ
とうひの森
リス
採草地
一人ぼっちの桜
山ブドウ
ウサギ
森納屋
ミズバショウの群生
家
牛舎
ヤマワラビ
ミーナタクリのスロープ
5月上旬が見頃
畑
牛の水飲み場
畑
ウサギ
採草地
放牧地
放牧地
ドロの丘
納屋
タヌキ
マッキンリーの丘
ハスの池
夏の間、白や赤の
ハスが咲いている
キツネ
エゾシカ
おじいさんのコブシ
採草地
クレソン
ガマ
ニセアカシアの森
採草地
オニグルミの沢